



平成27年(2015年)

10/1

第1388号

市報

こだいら



ぶるペー



携帯電話用



スマートフォン用

10月1日は市の誕生日



昭和37年10月1日、  
全国で558番目、東京  
都では11番目の市とし  
て誕生しました。

このときの人口は、  
70,634人でしたが、53  
周年目の今年の人口は  
188,309人(9月1日現  
在)となっています。

発行：小平市 編集：企画政策部秘書広報課 〒187-8701 小平市小川町二丁目1333番地 ☎042(341)1211(代表)

◇小平市ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp> ◇電子メール [info@city.kodaira.lg.jp](mailto:info@city.kodaira.lg.jp) ◇小平市公式ツイッター @kodaira\_tokyo

祝40回

小平市民まつり

はじける笑顔、  
元気なこだいら

10月18日(日)

今年も、ふるさと小平の秋を華やかに彩る、小平市民まつりの季節がやって来ました。あかしあ通りでは、色とりどりの手作り感が愛らしい子どもみこし、強い団結力が売りの市内ダンスチームによるダンスパレード、演奏や趣向を凝らしたパフォーマンスが楽しいパレード、迫力あふれる大人みこしが盛大に繰り広げられ、模擬店も多数出店します。

《詳しくは、6・7面をご覧ください》



市制施行53周年にあたり、所感を述べさせていただきます。

少子・高齢化が叫ばれて久しくなります。この間、国においても地方においても決定的な対策は打たれていませんでした。少子化対策は、女性施策はもとより、法制度や税制度などの抜本的かつ総合的な施策が必要です。また、高齢化対策では、健康寿命を延ばしつつ社会参加の機会を増やし、元気で活躍してもらうことが大切です。いずれも地方にとっては喫緊の課題であり、現実はかなり厳しく深刻です。

昨年、日本創生会議の報告書のなかで、全国の市町村の約半数が消滅するという衝撃的な発表がされました。国では、地方創生担当大臣を任命し、国を挙げて取り組みを始めました。都内でも、自治体を挙げて少子化対策に取り組む事例があらわれています。小平市でも本年度、平成72年(2060年)までの人口予測を示すとともに、今後5年間の地方創生にかかる「総合戦略」を策定することとしました。内容は検討中ですが、創業支援、子育て支援、定住人口の確保、観光事業の推進などが考えられ、それぞれに具体的な数値目標を設定し、取り組んでいくこととなります。

現在、小平市では、人口は微増傾向にあり、自然環境に恵まれ、自然災害に強く、また、大手企業の立地もあり、交通アクセスにも恵まれ

ています。要約すれば、都心と郊外の分岐点に位置しながら、その利点を最大限に生かしたまちづくりを継続的に進めてきた結果と捉えています。就学前児童の増加などから保育需要が高く、この5年で14園の私立保育園を整備するなど、9百人を超える保育定員増を図ってきました。

## 市制施行記念日を 迎えて

小平市長 小林 正則



年)から12年間で、試算では5百億円を超える多額のコストへの対応が求められます。これらの施設更新は、小平市のこれからの50年に耐えられるものでなければなりません。そして、何より夢と希望が持てるものでなければなりません。将来の課題に向き合い、目標方針を整理し、年次計画を立て、財源の裏付けをしつつ具体的な行動につなげていくのが公共施設マネジメントです。もはや問題の先送りではできません。夢を持ちながら、しかし厳しい現実とも向き合ってまいります。

その解決に向けては、小平市単独の取り組みだけでは困難です。地方創生にかかる国の総合戦略との整合や、東京都との連携・協力も欠かせません。加えて重要なのが周辺自治体との連携です。すでに多摩北部都市広域行政圏(小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市)では実績がありますが、さらに広域的に進める必要があります。

人口急増期の量の拡大成長路線から、質の確保を図り真の豊かさが実感できる協働・自治のまちの実現への転換が必要です。「再構築の時代」に歩を進める時がきました。

それには市民の皆様のご理解と協力が不可欠です。これからも、皆様とともに前へ前へと進めてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。